



FUKUSHIMA NEXT

人から始まる、新しい福島。

自分たちの伝えたいことを、自分たちの言葉で。

福島県双葉郡大熊町大川原地区では、新しい町づくりが始まっています。

そこでの暮らしを綴った新聞が「大川原LIFE(ライフ)」。

「若手職員の有志で何か自分たちでできる事業やろうよって」と大熊町出身の佐藤さん。

「外側の人から伝えるものじゃなくて、内側の自分たちの言葉で伝えたい」と長崎県出身の喜浦さん。

2019年10月の創刊以来毎月、復興の足取りを発信し続けています。

「今大熊町は大きく変化しています。何か新しいことが起きやすい、そんな土壌が少しずつ育っているのでは」

「人にも環境にも優しい先進的な地域になればいいなと思います」

「何よりも福島っていいところだと、胸を張っていえるようになりたい」

大熊町の、そして福島の「この先」についてそんなお話を伺いました。

福島、その先の環境へ。

震災から10年が経過しました。

環境省は引き続き除染をはじめとする環境再生事業を安全かつ着実に進めていくとともに、再生可能エネルギーの促進など、脱炭素まちづくりの取組や、「ふくしまグリーン復興構想」の推進など、復興に向けた未来志向の環境施策を福島県と連携して取り組んでいます。

環境省と福島県では、この“FUKUSHIMA NEXT”広告や活動を通じて、環境再生地域へ福島のリブランディングにチャレンジする方々を応援していきます。

福島、その先の環境へ。



環境省

